

## 平成30年度 WEC 応用生態研究助成 審査結果

平成30年度 WEC 応用生態研究助成の募集に36件のご応募をいただきました。

採択の審査にあたっては外部審査委員による審査委員会を開催しました。審査委員会においては、新規性、ダム管理にとっての重要性、結果の応用性・現場への適用性、研究の実現性等の観点から、申請された研究課題について評価を行いました。特に、学術的に新たな視点が見られるか、具体的な仮説を設定しているか、結果がダム管理の現場に汎用的かつ現実的に適用される見込みがあるかといった点が議論の中心になりました。厳正なる審査の結果、下記の4件を助成研究として採択することになりました。

採択された研究が良い成果を上げることを期待します。

### 平成30年度 WEC 応用生態研究助成 採択研究

助成番号	研究テーマ	氏名	所属	助成年数
2018-01	ダム・堰は遺伝的攪乱から在来個体群を守るのか？-在来系統の探索と遺伝的攪乱の実態解明-	北西 滋	大分大学 理工学部	2
2018-02	日本初の荒瀬ダム撤去（貯水池撤去）事業に伴う、本川・支川の流水ネットワークとしての再接続化と水生昆虫の集団構造・遺伝子流動スケール・モニタリング	東城 幸治	信州大学 学術研究院 理学系	2
2018-03	DNA バーコーディングを応用したダム湖の動物プランクトンモニタリング調査の高度化	牧野 渡	東北大学大学院 生命科学研究所	2
2018-04	ダム湖内および流入河川内における魚類の分布域探査システムの開発と実践	棟方 有宗	宮城教育大学 生物学教室	2

また、平成29年度に2年研究として採択された下記5件については、今年度研究を継続することになりました。研究がより進展することを期待します。

### 平成30年度 WEC 応用生態研究助成 継続決定研究

助成番号	研究テーマ	氏名	所属	助成年数
2017-01	砂防堰堤堆積土砂の排砂が下流河川の水質、河道地形及び生態系に与える影響の評価	巖島 怜	九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター	2
2017-02	ミサゴの生息数が内陸部で増えているのはなぜか？-生息地としての内陸部のダム湖や河川の適性評価-	榊原 貴之	岩手大学農学部共生環境課	2
2017-03	生態化学量論からの考えるダム湖からの栄養供給が下流食物網に与える影響	土居 秀幸	兵庫県立大学大学院 シミュレーション学研究所	2
2017-04	ダム貯水池における侵略的外来魚オオクチバスの繁殖抑制手法としての人工産卵装置の技術開発	中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 研究部	2
2017-05	御嶽山噴火により攪乱されたダム湖流入河川の水質変遷と河川生物の応答関係の把握	松本 嘉孝	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科	2